

2023年11月26日

第7回中村紀洋杯 チャンピオン大会

大会要領

- 主管 Ns Method
- 後援 エントリー ツルネット
- 運営 当該参加チーム
- 協賛 協賛各社
- 目的 野球を通じて心身の鍛練とスポーツマンシップを理解させることに努める
- 大会期日 2023年12月2日(土)・12月3日(日)・予備日12月9日
- 開会式 なし
- 閉会式 2023年12月3日 準決勝・決勝終了後
- 抽選会 2023年11月18日
- 使用球場 12月2日(土) 2会場 浜松市立高校、浜松学院高校
12月3日(日) 浜松開誠館高校
- 出場チーム 静岡県支部4チーム 東日本ブロック各支部推薦4チーム
- 試合方式 トーナメント方式
- 試合規則 2023年公認野球規則及びアマチュア野球内規並びに連盟特別規定による
- 試合参加資格 令和5年登録選手で中学1年生より2年生まで。
- 登録役員/選手名簿 代表・監督・コーチ・マネージャー各1名。選手は11名以上25名以内(ベンチ入りは25名以内とする)
- 選手登録書 大会当日会場に提出
- 参加料 大会当日会場にて20,000円を主催者へ支払う
- 大会本部事務局 NPO法人春日部ボーイズ 代表理事 本田光昭
電話 090-5414-1521 メールアドレス: csquintilesmh@yahoo.co.jp

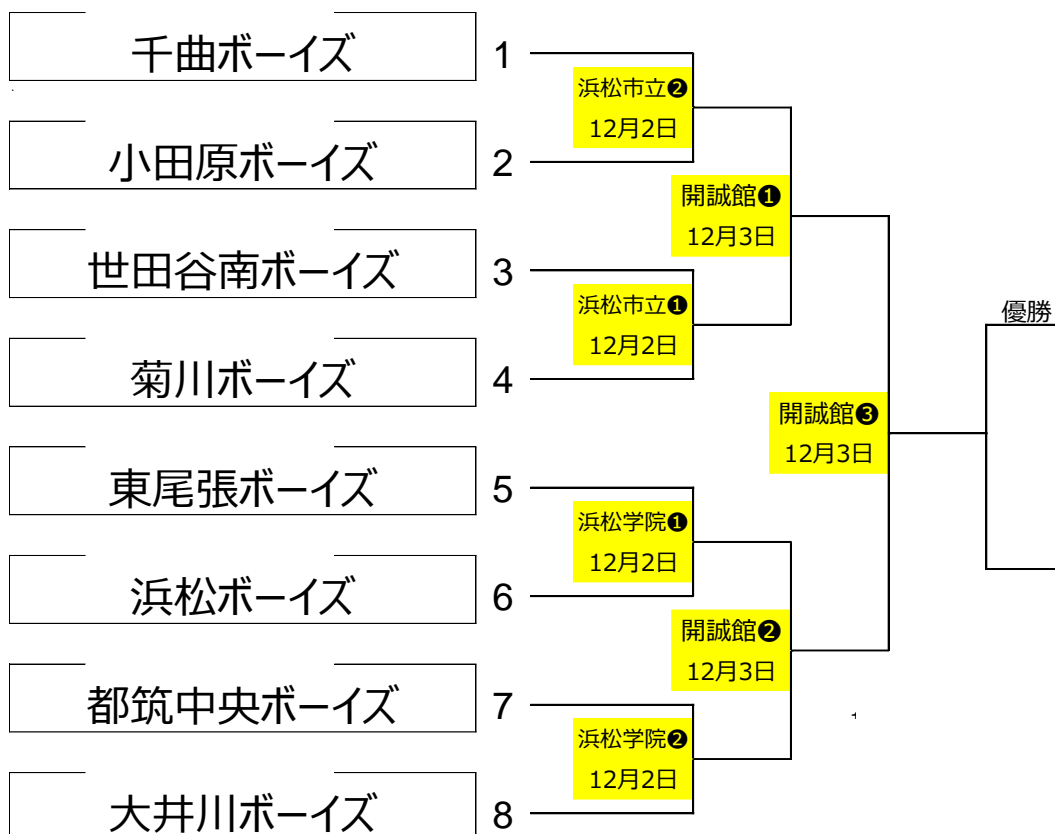
二中村紀洋野球教室（案）二

- 日時 2023年12月2日（土） 試合終了後14：30頃
- 場所 浜松市立高校グラウンド
- 参加対象者 参加チームの選手
- 講師 中村紀洋氏&プロ野球50年会

注意確認事項

- ✚ 参加費につきましては、当日各会場でお支払いをお願いします。（20,000円）
- ✚ 登録メンバー表につきましては、当日各会場へ提出をお願いします。
- ✚ 審判員のご協力をお願い致します。当該チームで審判の対応をお願い致します。翌日の決勝トーナメントも同様です。ご理解、ご協力をお願い致します。
- ✚ 各球場の運営は当該チームでお願い致します。
- ✚ 決勝トーナメント終了後表彰式を行います。
- ✚ 初日トーナメント終了後に浜松市立高校で野球教室があります。ご参加をお願い致します。
- ✚ ご不明な点は大会事務局までお願いします。

第7回 中村紀洋杯 チャンピオン大会



大会会場：	浜松市立	浜松市立高校	静岡県浜松市東区半田山2-24
	浜松学院	浜松学院高校	静岡県浜松市中区高林1丁目17-2
	開誠館	浜松開誠館高校	静岡県浜松市西区篠原町25469-1

12月2日 第一試合開始9:00 第二試合開始11:30

12月3日 第一試合開始8:30 第二試合開始11:00 第三試合開始13:00

中村紀洋杯 チャンピオン大会 大会規定

1. 1チームの登録選手は、注意事項に記載する
2. 出場選手はその大会の登録締め切り日現在連盟への登録済みの者に限る
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. 登録選手およびチーム責任者、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録書(チーム責任者、監督、コーチ) および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合が出来ない。
5. 監督(背番号 60)、コーチ(背番号 50)は選手と同じユニホームを着用すること。
6. 試合開始時間 60 分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表を 5 部、投球回数記録表副表 3 部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
7. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
9. 試合方式など
(中学生の部)
 - ① 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 21 分)を超えた場合、新しいイニングには入らない。(ただし、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する) また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - ② 4 回終了時(後攻チームの得点が先攻チームより多い場合は 4 回表終了時) 10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - ③ リーグ戦の場合 7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回あるいは試合開始から 2 時間を超えては新しいイニングに入らず、引き分けを採用する
 - ④ 決勝トーナメントのみ 7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回(決勝戦は 10 回)あるいは試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 20 分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規約実施細則「タイブレーク」参照)
10. 中学生の部の投手は 1 日 80 球以内、連続する 2 日間 120 球以内とする
11. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回守備 2 回の計 4 回とする。

延長又はタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)

(2)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3)内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

(12) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。

12. 1イニングで同一の投手に指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代となる。他の守備位置につくことが出来るが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
13. 審判員の判定に関する抗議は認めない。ただしルールの適用についての確認は認める。
14. 監督またはコーチが投手に指示などをするときはマウンドで行うこと(ベンチから駆け足で)
15. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
16. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
17. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
18. 各チームは同色のヘルメットを1チーム7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ(一体型捕手用マスクの場合はヘルメット、ストローガードを除く)】2組を備えること。
19. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る
20. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 21.グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
22. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する
23. 光化学スモッグ~~や~~雷の発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
24. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

参考

野球規則 7.01 (4)

7.02 (a) によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する

【注】

我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終回均等回の総督でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点しホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、また裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合

タイプレック実施細則 (決勝トーナメントのみ採用)

(1) 特別規則

- イ) 中学生の部は延長 8 回あるいは試合開始から 2 時間を超えて (いずれか早い方)、決勝戦は 10 回あるいは 2 時間 20 分を超えて (いずれか早い方)、小学生の部は延長 7 回あるいは試合開始から 1 時間 40 分を超えて (いずれか早い方)、決勝戦は 9 回あるいは 2 時間 00 分を超えて (いずれか早い方) 両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- ニ) この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

イ) 投手記録

- ✓ 規定により出塁した 3 走者は、投手の自責点とはしない。
- ✓ 完全試合は認めない。
- ✓ 無安打、無得点試合は認める。

ロ) 打撃成績

- ✓ 規定により出塁した 3 走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ✓ 規定により出塁した 3 走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続する2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板してなくても連続する2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※ 捕 手 可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。

※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。